

「殺生石」物語考【最終回】

物語の考察⑥

九尾狐の「殺生石」の物語は、日本人により、長年にわたって作られたものであるが、他国にも、このような狐の怪異物語はある。いや、「殺生石」や「玉藻前」の物語のルーツは中国にある。すなわち、九尾狐に関する怪異の記録や物語が、多く中国の古書に存在するのである。

「山海経」は、古代中国（戦国時代・紀元前5〜3世紀）成立の地理書であり、漢時代に書き足され、清時代に「山海経箋疏」の注釈書が出された。この書には古代中国各地の怪異が記されている。これによると、南方の青丘国には、虎の爪の四本の足、九つの尾がある獣がいて、嬰兒のように鳴き、人を食らう九尾狐がいると紹介している。

また、崑崙という山には、狐の姿をし、九つの尾と九つの頭を持つ、龔姪という獣もいると記している。

この「山海経」をはじめとして、中国には狐に関する怪異や不思議を記した古書が少なくない。以下、九尾狐が登場するも

のを羅列する。後漢時代の「呉越春秋」、元時代の「武王伐紂平話」、明時代の「春秋列国史伝」「封神演義」、清時代の「狐狸縁全伝」等々である。日本の作者が、これらの書物を参考にすることは、想像に難くない。ベトナムのハノイに「タイ湖」がある。この湖の古名は「ダム・サックカオ（狐の死骸の沼）」という。ここにも九尾狐の伝説がある。また、朝鮮半島には、クミホ（九尾狐）の伝説がある。

人々は、「実」とは違う世界に、何を求めているのであろう。そうして、「虚」に対する人々の願いが、時代と共に新たな歴史を生み、それが又「実」の歴史となる。

筆者は今、「殺生石」物語の舞台が、わが那須町にあることを大いなる誇りとし、二年半に渡ってお読みいただいた読者の皆様に、深く感謝しながら、ここに連載の筆を置かせていただく。

完

筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏寿 先生(湯本在住)

今月のひとこと

長梅雨も明けぬ日は無しワクチンが開発さるるは明日かもしれぬ

かつこう

一人あたり10万円が支給される特別定額給付金の申請書がわが家にも届きました。作成してみると、なかなか手間がかかりました。

申請にあたり、高齢者世帯や車に乗らない方のため、記入や必要書類のコピー、ポストへの投函などを民生委員の皆さんにご協力いただいています。



こんにちは

赤ちゃん



深澤
りょうま
竜真くん
(水堀大久保)

平成31年
1月19日生

父 翔太さん 母 麻希さん

竜真くんは…

お兄ちゃんとおはなが大好き。すくすく育ってね。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

こうして町に届いた申請書は受付開始から4日で約7,200通。対象者の7割を超える方から返信されました。毎朝、郵便局から町に届く申請書の封を切る作業をしていると、かわいらしい絵や、励ましの言葉が添えられているものがあることに気づきます。少し手を休めて眺め、作業に戻ると封を切る手に力が入ります。温かいメッセージ、大変ありがとうございます。

④

『「殺生石」物語考』が終わりを迎えました。齊藤先生が綴る魅力あるこの物語を、多くの方にお楽しみいただけたと思います。広く知られている殺生石物語。私もこのコーナーをとおして、物語が那須の地に結びついた歴史的背景や物語として完成されていく時代の経緯など、物語を深く知ることができました。7月号からは、那須の自然を楽しむためのコーナーが始まります。乞うご期待。

⑤

町の世帯と人口

(5月1日現在・住民基本台帳)
()の数字は前月比

・世帯数 10,402世帯 (+24)
・人口 24,918人 (+5)
男 12,387人(+2) 女 12,531人(+3)

あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。